

飛躍の年になることを願って 令和5年 大崎市新年のつどい

「第15回宝の都(くに)・活性化貢献賞」の受賞団体と活動内容

宮沢地域振興協議会	行政と協働による安全・安心かつ明るく住みよい地域づくりを目的に、アンケートの実施や懇談会などを実施。
サークル・アン	読み聞かせを通して、子どもたちが本に関心を持ち、親しんでもらうことを目的に、本と出会い、触れ合う場などを提供。
松山地域内公共交通運営委員会	地域内公共交通の確保と、地域の実情に即した公共交通サービスの実現を図ることを目的に、「コスモス号」を運行。
鹿島台互市運営委員会	明治43年に、村民の豊かな暮らしを願い開設した互市。感染対策の協議を重ね、3年ぶりに開催し、再び地域に活気を与えた。
政宗公まつり実行委員会	コロナ禍の難局を乗り越え、3年ぶりに「政宗公まつり」を通常開催。市民に再び「感動」と「興奮」を伝えた。

大崎市特別感謝状の受賞者と功績

呉地 正行 日本雁を保護する会 など	国際的に重要な湿地保全の貢献に贈られる「ラムサール湿地保全賞ワイズユース部門」を受賞。
遠藤 大地 元帝京大学 陸上競技部	東京箱根間往復大学駅伝競走に4年連続出場し、日本人区間最高記録を更新する。
岩崎 生弥 仙台育英学園高等学校 硬式野球部	第104回全国高等学校野球選手権大会での活躍により、東北勢初の優勝に大きく貢献。

1月4日、大崎市新年祝賀会実行委員会(大崎市・古川商工会議所・大崎商工会・玉造商工会・古川農業協同組合・新みやぎ農業協同組合)主催による、「令和5年大崎市新年のつどい」を開催しました。4部で構成されたつどいには、約300人が参加し、新年を祝いました。

「第15回宝の都(くに)・活性化貢献賞」贈呈式
市の魅力の発信や、地域活動を促進するために先導的な役割を果たした5団体に、功績を顕彰するトロフィーが贈呈されました。

「大崎市特別感謝状」贈呈式
各専門分野で活躍し、市の施策の推進や市の知名度向上に寄与した3人に、特別感謝状が贈呈されました。

新春講演会
おおさき宝大使の同志社大学教授、大和田順子氏が、「市民総参加で創るSDGs未来都市大崎」をテーマに講演しました。

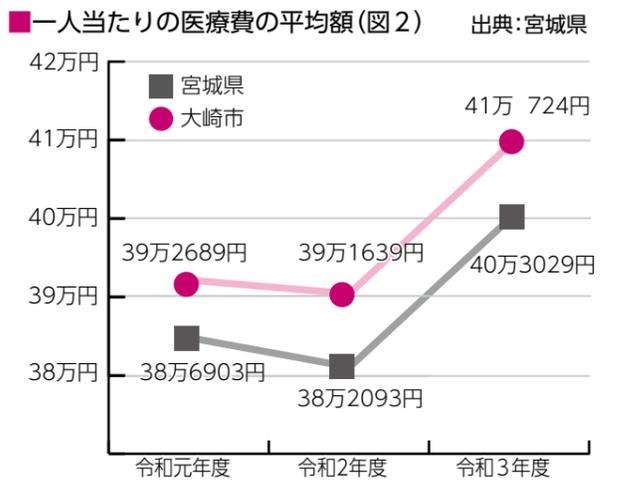
第15回おおさき子どもサミット2022発表会
昨年11月25日に、市内の小学校の児童が参加し、「第15回おおさき子どもサミット2022」が開催されました。参加校を代表し、古川第二小学校と大貫小学校が、「語り合おう大崎市の今、夢、未来」をテーマに、パネルディスカッションした内容を発表しました。

大和田氏は、「生きものと共生する農業や地域づくりは、ラムサール条約、世界農業遺産、SDGs未来都市として高く評価されている。この景観は、大崎耕土に住む市民の幸せの源泉。市民総参加でSDGs未来都市大崎の未来、渡り鳥に愛され続ける田園都市創生に、取り組んでいきませんか」と話しました。

また、おおさき宝大使の元横綱白鵬関で現宮城野親方からのビデオメッセージが上映され、場内は温かい拍手に包まれました。

疾患別の患者数と医療費(図1)
資料:レセプトデータ(大崎市)
※費用額は1万円未満を四捨五入しています。

分類	患者数	医療費
新生物(腫瘍)	7,133人	19億541万円
循環器系疾患	13,856人	17億2839万円
内分泌・栄養・代謝疾患	13,931人	9億8686万円
腎尿路系疾患	6,808人	9億2616万円
筋骨格系・組合組織の疾患	10,876人	7億5750万円
消化器系疾患	13,120人	7億1756万円
神経系疾患	5,979人	6億9800万円
精神・行動の障害	3,553人	6億4492万円
呼吸器系疾患	8,787人	4億3928万円
損傷、中毒、その他外因の影響	4,665人	3億4246万円
眼、付属器の疾患	7,762人	3億2006万円
感染症 ほか	5,292人	1億9615万円
皮膚・皮下組織の疾患	7,254人	1億6836万円
血液・造血器、免疫機構の障害	3,271人	1億5945万円
その他	24,935人	4億3931万円
総額		104億2989万円



生活習慣病患者一人当たりの医療費(表1)

疾病	健診未受診者	健診受診者
糖尿病	755,060円	363,845円
高血圧症	654,196円	349,759円
脂質異常症	477,417円	259,400円
計	623,763円	323,004円

生活習慣病患者のうち、健康診査未受診者の一人当たりの医療費は、受診者の1.5倍から2倍となっています。(表1)

人工透析などの診療行為が必要になる患者のうち、生活習慣病である糖尿病が重症化した糖尿病性腎症の人は、約69%となっています。

厚生労働省「令和3年人口動態統計」において、死因順位の第1位は「悪性新生物(腫瘍)」、第2位は「心疾患」、第3位は「老衰」、第4位は「脳血管疾患」となっています。

治療が完了した後の生活も重要です。食事や普段の生活習慣を見直し、適度な運動を行い、健康診査や各種がん検診などを受け、疾病の早期発見・早期治療に努めましょう。

会社員などが加入する社会保険や共済組合とは別に、自営業や農業など、勤務先の健康保険に加入していない人の医療を保障する制度が国民健康保険(国保)です。

国保は、加入している被保険者からの保険料と、国や県の負担金などを財源として、県と県内市町村が運営しています。

大崎市国保の医療費
令和3年度の診療報酬明細書(レセプト)から大崎市国保の医療費を見ると、総額で約104億円でした。(図1)

一人当たりの医療費も増加し続けています。(図2)

医療費の疾患別割合で上位5つの疾患は、肺・大腸・胃がんなどの「新生物(腫瘍)」、高血圧症や狭心症などの「循環器系疾患」、糖尿病や脂質異常症の「内分泌、病や脂質異常症の「内分泌、栄養および代謝疾患」、高血圧症や狭心症などの「循環器系疾患」、胃炎や十二指腸などの「消化器系疾患」です。(図1)

規則正しい生活や適度な運動、バランスの良い食事、健康診査を受けることで、健康的な生活を送り、医療費の増加を防ぎましょう。

生活習慣病を見直し、健康な生活心がけましょう

生活習慣病の重症化の予防や医療費の増加を防ぐために、年に一度の健康診査が大切です。

生活習慣病患者のうち、健康診査未受診者の一人当たりの医療費は、受診者の1.5倍から2倍となっています。(表1)

人工透析などの診療行為が必要になる患者のうち、生活習慣病である糖尿病が重症化した糖尿病性腎症の人は、約69%となっています。

厚生労働省「令和3年人口動態統計」において、死因順位の第1位は「悪性新生物(腫瘍)」、第2位は「心疾患」、第3位は「老衰」、第4位は「脳血管疾患」となっています。

治療が完了した後の生活も重要です。食事や普段の生活習慣を見直し、適度な運動を行い、健康診査や各種がん検診などを受け、疾病の早期発見・早期治療に努めましょう。

健康な生活で医療費の増加を防ぎましょう

保険給付課 国民健康保険担当 ☎ 6051